

下糟屋・丸山遺跡

(伊勢原市No.71遺跡)

調査期間 20080401～20080815
20090116～20090215

所在地 伊勢原市下糟屋
2181、2202 ほか

時代 縄文
弥生
古墳
奈良・平安
中世
近世



作成日:20090619

概要

本調査は、独立行政法人都市再生機構東日本支社による、伊勢原都市計画土地区画整理事業成瀬第二特定土地区画整理事業に伴う発掘調査です。下糟屋・丸山(伊勢原市No.71)遺跡のうち、調査地は中世城郭である丸山城址の範囲に含まれています。丸山城の築城については、鎌倉時代初期に周辺一帯の庄を領した糟屋有季(かすやありすえ)という人物によって築かれたという伝承が残っていますが、糟屋氏の没落後、城郭がどのような経過をたどっていったのかはあまり良く判っていません。平成19年度の調査では丸山城外周を巡る堀の一部が検出され、内側の丘陵上に土塁を築いている事と併せてみても、かなり大規模な土木工事が行われていることが判ってきました。

平成20年度の調査では、丸山城の城郭内部に作られた、外周のものとは別の堀が検出されています。この堀は、幅約6m・深さ3m程度のいわゆる箱薬研(やげん)状の断面形を呈し、隣接する高部屋(たかべや)神社を囲う様な配置で鉤(かぎ)の手状に掘られ、神社西側の境界に沿って調査区外へと延びています。

また城郭外周部分でも追加調査を行い、何度にもわたり外側へ段切り造成を行い平場を作った痕跡が認められました。こうした段々畑のような平場では、掘立柱や竪穴状の建



▲下糟屋D C1号堀全景



▲丸山E 中世段切り及びC1号溝

物址が幾つも見つかり、おそらくは作業場等の施設が作られていたものと考えられます。

この他、弥生時代末～古墳時代及び奈良・平安時代の竪穴住居址が合計 16 軒検出され、丘陵東側の斜面一帯が長期にわたって居住域として利用されていたことがわかっています。



▲下糟屋D 竪穴住居址群